



Sailing Ahead

2025年11月



11月24日から12月3日まで国際海事機関(IMO)の第34回総会が開催されました。PIANCはIMOの暫定協議機関としての資格が与えられており、今回の総会には、代表としてマルタ・メンディサバル・デル・アルコ氏(Mrs [Marta Mendizábal Del Arco](#), Senior Principal Maritime Engineer, Mott MacDonald社-写真中央)、ジョージ・サヴォポウロス氏(Mr [George Savvopoulos](#), Senior Associate Maritime, Mott MacDonald社-写真右)、クリス・ベル氏(Mr [Chris Bell](#), Senior Consultant, Arup社)及び、我々PIANC会長と事務総長、フランシスコ・エステバン・レフラー氏(Mr [Francisco Esteban Lefler](#))、ヘルト・ファン・カッペレン氏(Mr [Geert Van Cappellen](#), -写真左)が参加しました。

現在は、IMOの活動・取り組みに係る理解の深化が中心ですが、願わくはPIANCとIMOのノウハウを最大限に活用したいと思っています。

今後のPIANCイベントにご参加ください！

PIANC 「北海」 会議及び年次総会2026
PIANC NORTH SEA CONFERENCE & AGA 2026
2026年5月11日-15日

PIANC 第11回COPEDEC 2027
PIANC-COPEDEC XI
2027年2月21日～26日



ウェブサイト開設済, 事前登録も可能です！
2026年1月より正式登録受付開始！

[事前登録受付中, 日程確保を
ウェブサイト から！](#)

第1回お知らせダウンロード [こちら！](#)
または ウェブサイト参照(下記クリック)

[ウェブサイト から！](#)

PIANC 各WG及び委員会からのニュース

若手技術者委員会(YP-Com)からのニュース

PIANC YP-Com内の最新ニュース：



PIANC YP-Comにとり実りある1年間でした！

2025年の年末を迎えるにあたり, YP-Com理事メンバーから, YPメンバー及び関係者の皆さまに年末年始のご挨拶とご多幸をお祈り申し上げます。

[続きを読む・・・](#) (リンク先記事「仮訳」[7頁参照](#))



アメリカ地域担当の副委員長の新任の補佐 Facundo Seillant氏のご紹介：

アメリカ地域担当の副委員長補佐として、Facundo Seillant氏が就任されたことをお知らせいたします。アルゼンチン・ブエノスアイレス出身の同氏は、港湾・水路プロジェクトを専門とする土木技術者です。現在は、チリ・サンティアゴを拠点とし、Neltume Ports社のエンジニアリング部門の責任者として、北米・中米・南米にまたがるインフラ及び物流プロジェクトを統括しています。[続きを読む・・・](#)（リンク先記事「仮訳」[8頁参照](#)）



2025年の若手技術者(YP)地域イベント

[続きを読む・・・](#)（リンク先記事「仮訳」[9頁参照](#)）



今後の若手技術者(YP)地域イベント

PIANC「北海」会議の併催YPイベント

- 開催地：英国・ハル
- 開催日：2026年5月10日～12日
- <https://www.piancull2026.org>

気候変動に関する常設タスクグループ(PTGCC)からのニュース

2025年11月18日、PIANC PTGCCは「エネルギー転換を支える港湾の役割：港湾と船舶の脱炭素化」をテーマにウェビナーを開催しました：次の3つの興味深いプレゼンテーションが参加者に共有されました。



- ネット・ゼロの成熟度の評価・ベンチマークツール
Rhona Macdonald氏(British Ports Association)
- 陸上給電の導入準備
Matheus Miranda氏(PE Project Manager)
- リアルタイム資産データによる港湾脱炭素化の推進
Erik Gerking氏(Port of Everett)
Aldo Ferrufino氏(Ports and Maritime US West)

ウェビナーを見逃した方は、録画をPIANC YouTubeチャンネルから視聴できます！

<https://youtu.be/R4-4ZIdGZy0>

PIANC 各WGからの最新ニュース

[海港委\(MarCom\) WG225- ‘港湾施設の耐震設計ガイドライン\(Seismic Design Guidelines for Port Structures\)’ - 第5回対面会合の開催\(於 イタリア・パヴィア\)](#)

※リンク先記事の「仮訳」は[11頁参照](#)



[海港委\(MarCom\)WG 231- ‘係船柱・係船フック\(Mooring Bollards & Hooks\)’ - 会合の開催\(於 オランダ・ロッテルダム\)](#)

※リンク先記事の「仮訳」は[12頁参照](#)



PIANCコミュニティからのニュース

各国部会や各国支部からの活動実績報告や今後のイベントの共有のお知らせ

PIANC アルゼンチン部会からのニュース

PIANC ポルトガル部会からのニュース



[若手技術者\(YP\)アルゼンチン部会 -年次技術視察\(ATV\)- バイア・ブランカ\(Bahia Blanca\)2025](#)



[第12回海岸・港湾工学全国会議の開催](#)



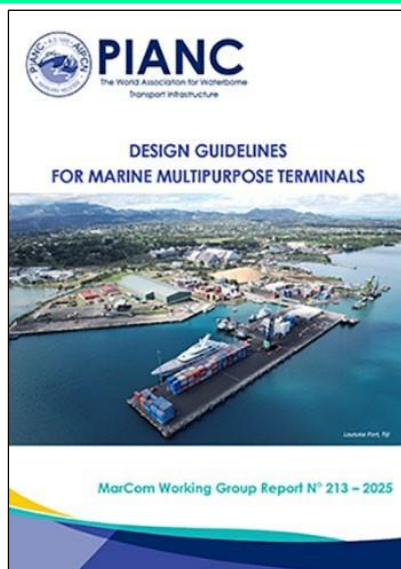
PIANC 新たな国内部会としてモロッコを歓迎

タンジェで開催されたPIANC地中海ディズの大成功を受け、PIANCはモロッコを新たな国内部会として歓迎します。

改めて、PIANC地中海ディズの素晴らしい開催にご尽力いただいたモロッコに感謝申し上げますとともに、今後のさらなる実りある協力関係を楽しみにしています。

出版物

最新の発刊



左記の設計ガイドラインが2025年10月に出版されました。

PIANC WG 213(海港委員会(MarCom))：‘海上多目的ターミナルの設計ガイドライン(Design Guidelines for Marine Multipurpose Terminals)’

[PIANC会員は無料ダウンロード！](#)

[ウェブショップからの購入！](#)

近日発刊

次の報告書は近日中に発刊予定です。

PIANC WG 153c(海港委員会(MarCom))：‘グリーン燃料および化石燃料ベースの貨物を扱う海上液体・ガスターミナルの設計および評価に関する提言(Recommendations for the Design and Assessment of Marine Liquid and Gas Terminals Handling Green Fuels and Fossil-Based Cargoes)’

プラチナ会員からのニュース

東亜建設工業(株)のアンゴラ・ナミベ湾の包括開発プロジェクト「サコマール港鉄鉱石輸出ターミナル修復事業」「ナミベ港コンテナターミナル拡張事業」完成のお知らせ

東亜建設工業(株)(本社：東京都新宿区、代表取締役社長：早川 毅)は、アンゴラ共和国ナミベ湾において進めていた包括開発プロジェクト「サコマール港鉄鉱石輸出ターミナル修復事業」「ナミベ港コンテナターミナル拡張事業」が2025年10月10日に完工したことをお知らせいたします。

[続きを読む・・・](#)（リンク先記事「仮訳」[13頁参照](#)）

Ewa Asanuma
TOA Corporation

Trelleborg社の専門家

ポルトガルの重要な海岸工学会議でイノベーションの見識を共有



海岸工学の関係者がポルトガル中部のフィゲイラ・ダ・フォス (Figueira da Foz) で開催された第12回ポルトガル海岸・港湾工学全国会議に参集しました。Trelleborg Marine and Infrastructure社も参加し、デジタル・イノベーションによる港湾運営の変革について紹介しました。

2025年11月6日-7日に芸術・エンターテインメント・センターとサントス・ロシャ市立博物館で開催された、この重要なイベントによって、ヨーロッパ中の海岸・港湾工学の専門家達が技術革新と業界連携に焦点を当てた2日間の集中的なセッションを行いました。

[続きを読む...](#)

Alexandra Yang

Marketing Executive Trelleborg Marine and Infrastructure

以下はPIANCのプラチナパートナーです：



ソーシャルメディアでPIANCをフォローしてください：



ニュースレターのご購読をご希望ですか？ メール設定は [こちらから](#)

PIANC公式サイト：<https://www.pianc.org/>

PIANC会員になるには（右記、日本部会へご連絡を） info@pianc-jp.org

<https://www.pianc.org/join-pianc/>



PIANC YP-Com(若手技術者委員会)にとり実りある1年間でした！

2025年の年末を迎えるにあたり、YP-Com理事会メンバー同より、YP会員及び関係者の皆さまにの
年末年始のご挨拶とご多幸をお祈り申し上げます。

本年は、YP-Comにとり目覚ましい成果のあった年でした。主な成果の一つとして、韓国・釜山で開催
した隔年の技術視察(BTV)が上げられますが、それだけではなく各国支部においても優れた地域イ
ベントが開催されました。



2026年2月4日、ブリュッセルのPIANC本部で開催される若手技術者委員会(YP-Com)会議への各国代
表委員、代理委員、オブザーバーの皆さまのご参加をお待ちいたします。

本会議はハイブリッド形式で開催されます。詳細スケジュール・議題は、近日中にメールにてご案内
します。

ブリュッセルにて皆さまとお会いできることを楽しみにしております。

[Anja Brüning](#)

若手技術委員会・事務局長(Secretary YP-Com)

アメリカ地域担当の副委員長の新任の補佐：Facundo Seillant氏のご紹介

アメリカ地域担当の副委員長補佐として、Facundo Seillant氏が就任されたことをお知らせいたします。アルゼンチン・ブエノスアイレス出身の同氏は、港湾・水路プロジェクトを専門とする土木技術者です。現在は、チリ・サンティアゴを拠点とし、Neltume Ports社のエンジニアリング部門の責任者として、北米・中米・南米にまたがるインフラ及び物流プロジェクトを統括

港湾設計、水工学、プロジェクト管理において確固たるアカデミックな基盤及び実践的な経験を有するFacundo氏は、パラナ(Parana)川プロジェクトからアルゼンチンにおける戦略的な水路計画に至るまで、多くの主要な事業・イニシアティブに携わってきました。彼の専門知識は、技術設計、現地調査・現場検査、PIANCガイドラインを含む国際基準の適用にまで及びます。



同氏の今回の役職に就任する動機は明確であり、PIANCのアメリカ大陸における存在感の強化、技術的な提言の推進及び、大学やキャリアの初期形成段階にある若手技術者の参画を促進することです。PIANCとACHIPYC(チリ港湾・海岸工学協会, Asociación Chilena de Ingeniería de Puertos y Costas)などの地域団体との架け橋の構築、チリ国内部会の設立、米大陸全体にまたがる知識共有の拡大を目指しています。

Facundo氏の理事会メンバー参加により、2026年からのPIANC若手技術者委員会理事会の全ての役職が確定しました。

The PIANC YP-Com Board in 2026



Facundo氏の参画を歓迎し、アメリカ大陸におけるPIANCの影響拡大という彼の使命を支援しましょう。彼とつながり、港湾・水路工学の未来を共に形成する一員となりましょう。

Anja Brüning
若手技術委員会・事務局長(Secretary YP-Com), PIANCドイツ

2025年(直近)開催の若手技術者(YP)地域イベント

アルゼンチン 年次技術視察(ATV)

2025年11月6日から8日に、PIANCアルゼンチン部会、アルゼンチン港湾工学協会(AADIP, Argentine Association of Port Engineering)の若手技術者グループは、ブエノスアイレス大学(UBA)工学部大学院港湾工学科(EGIP)の協力のもと、恒例の年次技術視察(ATV)を実施しました。



今回は、ブエノスアイレス州南部に立地し、国内および地域レベルの規模で戦略的な重要性を持つ港湾複合施設であるバイア・ブランカ(Bahía Blanca)を中心としたプログラムが組まれました。本イベントには、海事・港湾セクター分野から多くの若手技術者、学生、主要な関係者が集結し、3日間にわたり40名から50名程度の参加者が終結しました。

詳細については、下記ウェブサイトをご参照ください：

<https://www.linkedin.com/feed/update/urn:li:activity:7393668096424824832>

アルゼンチン若手技術者のPIANC地域イベントへの参加

モロッコ部会主催による海岸・港湾工学に関する第6回PIANC地中海ディズ会議及びポルトガル部会主催による第12回ポルトガル海岸・港湾工学会議の開催に際し、若手技術者アルゼンチン部会から、YP-Com委員代理の一人であるBruno Maggiolo Rodon氏が両会議に代表として出席しました。

Brunoは所属企業(Port Consultants Rotterdam)と共に、各会議向けに各1編、計2編の論文を作成・発表しました。両論文とも、港湾の役割、現在進行中の脱炭素化およびエネルギー転換段階から予測される影響について言及する内容となっています。



豪州・ニュージーランド

11月19日、ニュージーランド海岸学会(NZCS, New Zealand Coastal Society)会議に参加した若手技術者(YP)を対象とした交流会がネイピア市にて開催されました。開催を通じて、およそ35~40名の若手が参加しました。

会場となったNZCS会議会場向かいのパビリオン・スポーツバーでは、[Tom Shand](#)氏によるPIANCのプレゼンテーションが行われ、参加者はドリンクを楽しみ、地元のブラックキャップス戦を観戦する傍らで活発なネットワーキング活動がありました。



詳細については、下記のリンクをご参照ください：

<https://www.coastalsociety.org.nz/conferences/2025/networking-events/>

[Anja Brüning](#)

若手技術委員会・事務局長(Secretary YP-Com)

海港委(MarCom) WG225-「港湾施設の耐震設計ガイドライン(Seismic Design Guidelines for Port Structures)」- 第5回対面会合の開催(於 イタリア・パヴィア)

PIANC海港委(MarCom)WG 225は、2025年10月14日から16日にかけてイタリア・パヴィア Eucentreにて対面会合を開催しました。今回の会議は、2023年9月4日～5日(ブリュッセル開催)の第1回、2024年4月2日～3日(東京開催)の第2回、2024年10月8日～10日(ロンドン開催)の第3回、2025年4月22日～24日(オークランド開催)の第4回に続く、本WGにとり5回目の対面会合でした。イタリア、英国、ベルギー、オランダ、米国、豪州、日本から11名の委員メンバーが対面で参加しました(写真1)。

さらに、地盤地震工学分野の著名な研究者であるCanterbury大学のMisco Cbrinovski教授も本会合に参加いただき、WGメンバーへの有益なご意見をいただきました。



WG 225 対面会議(2025年10月14日～16日、イタリア・パヴィアEucentreにて開催)

本WG225の目的は、WG34により作成・2001年発刊された既存の「PIANC港湾構造物耐震設計ガイドライン」を改訂することです。本WGでは3つのサブグループを設置しました。

サブグループAは、Helge Frandsen氏がリーダーを務め、設計理念、性能目標、損傷・被害基準を担当しています。サブグループBは、Marc Percher氏がリーダーとなり、耐震解析を担当します。サブグループCでは、Carlos Ospina氏とJhon Paul Smith氏が共同リーダーを務め、ベストプラクティスや設計等の詳細を担当しています。これらのサブグループは活発に活動していて、第4回(オークランド)と第5回(パヴィア)対面会合の間のわずか6か月間に、9回のオンラインサブグループ会議を開催しました。さらに、この期間中には地盤工学上の課題に特化するオンライン会議を5回実施しています。今回のパヴィア会合では、初日は用語、設計理念、性能目標に関する議論に充てました。2日目は地盤工学上の課題に関する議論を実施しました。3日目は、STSクレーンの設計に関する専門家をオンラインで招待し議論しました。あわせて、今後のスケジュールについての協議も実施しました。現時点では、私の見るところ初稿はほぼ完成しています。しかしながら、内部整合性のチェックやSTSクレーンに関連するセクションの拡充がまだ必要と考えています。WG 225レポートの早期の完成が世界中の港湾構造物の安全性に貢献できることを願っています。

野津厚
WG225議長

海港委(MarCom)WG 23I- ‘係船柱・係船フック(Mooring Bollards & Hooks)’ -会合の開催 (於 オランダ・ロッテルダム)

WG23I(係船柱・係船フック)の会合が10月にTrelleborg社(ロッテルダム・オフィス)にて開催されました。本会合では、前回のサウサンプトン会合以降の数ヶ月間で作成した原稿のレビューや議論を行いました。北米、欧州、豪州、英国、アジアからのWG委員を含む16名のメンバーが現地参加しました。ほとんどの章において、初稿コンテンツ作成がほぼ完成する段階に近づいております。これにより、WGチームでは2026年に全面的レビューを実施し、必要に応じて精緻化を進めることが可能です。



Trelleborg社と Mampaey Offshore Industries社及びMF Straatman社と共同して、クイックリリース・フックとスマート・ボラードに焦点を当てたロッテルダム地域における包括的な視察ツアーを企画していただきました。WGメンバーは、DordrechtにあるMampaey社の生産施設、ロッテルダム港 Maasvlakte石油ターミナルとPrinses Amaliahaven施設を視察しました。新しいクイックリリース・フックの組み立て工程、石油ターミナルにおけるクイックリリース・フックの運用実態、そして完成したスマート・ボラード設備を直接見学できました。今回の非常に成功した会合開催にご尽力いただいたTrelleborg社及び関係者の皆さまに心より御礼申し上げます。

現在、次回会合を計画中であり、2026年3月にアジアでの開催を予定しております。

[Chris Bolton](#)

MarCom WG 23I議長

東亜建設工業(株) アンゴラ・ナミベ湾の包括開発プロジェクトの完成 -サコマール港鉄鉱石輸出ターミナル修復事業 及び ナミベ港コンテナターミナル拡張事業-

東亜建設工業(株)(本社:東京都新宿区,代表取締役社長:早川 毅)は,アンゴラ共和国ナミベ湾にて実施してきた包括開発プロジェクト「サコマール港鉄鉱石輸出ターミナル修復事業」「ナミベ港コンテナターミナル拡張事業」を2025年10月10日に完工したことをお知らせします。

1. 背景

アンゴラ共和国の港湾インフラは,1975年の独立以降,続いた内戦により著しい損傷・劣化が生じており,南部地域の経済発展を阻む重大な障害となっていました。特にサコマール港とナミベ港は,鉱物資源の輸出と生活物資の流通において極めて重要な役割を担っているもので,当該港湾の近代化と機能回復は喫緊の課題でした。

本プロジェクトは,アンゴラ政府の港湾再建計画の一環として,東亜建設工業(株)コンソーシアムが2019年1月11日にアンゴラ共和国交通省と請負契約を締結し2022年9月に着工しました。



両港湾の位置図

2. プロジェクト概要

本プロジェクトは,サコマール港鉄鉱石輸出ターミナル修復とナミベ港コンテナターミナル拡張という2つの事業で構成されます。両港湾はナミベ湾に立地しています。

(1)サコマール港鉄鉱石輸出ターミナル修復事業

サコマール港は1967年に開港し,アンゴラ共和国南部のカシング鉱山の鉄鉱石の輸出拠点として機能してきました。しかしながら1975年から2002年まで続いた内戦により,鉱山と港湾の運営・操業は停止し,鉱山・港湾の施設・設備は長年にわたり荒廃した状態が続きました。その中でアンゴラ共和国政府の国家戦略であったカシング鉱山の再開のためには,その輸出拠点であるサコマール港の再建が不可欠となりました。

本プロジェクトの一環として、鉄鉱石積み出し用の新設の棧橋(全長約520メートル)の建設と港湾背後地(内陸部)の開発整備を実施しました。

このサコマール港鉄鉱石輸出ターミナル修復事業により、アンゴラ共和国南部のカシंगा鉱山で採掘される鉄鉱石の輸出再開が可能となり、これまで原油輸出への依存度が大きかったアンゴラ経済の産業多角化の促進が期待されています。



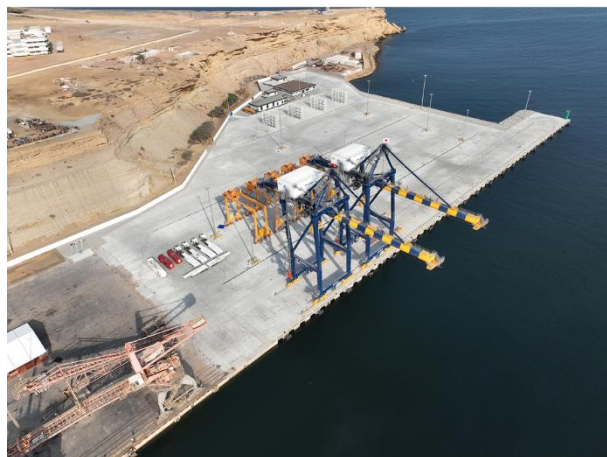
現在のサコマール港

(2)ナミベ港コンテナターミナル拡張事業

ナミベ港は、モサメデス鉄道の起点として内陸部と接続するアンゴラ南部の重要な物流拠点として機能しますが、在来の岸壁の水深は浅く、大型コンテナ船の寄港が困難であったため、輸出入の一部を隣国ナミビアのウォルビスベイ港に依存せざるをえませんでした。

本事業では、コンテナターミナルの建設、港湾の浚渫工事、コンテナクレーン・船舶運航管理システム(VTS)・作業船などの機械・設備の調達供給・据付設置等を実施しました。これにより最大50,000 DWT(3,000TEU)級の船舶の受入・対応が可能となりました。

ナミベ港コンテナターミナル拡張により、大型コンテナ船の接岸が可能となり、貨物取扱能力の大幅な増加が見込まれます。さらに、これまで隣国の港湾に依存していた同国の南部地域の輸出入が、今後は自国の港湾で可能となり、輸送コスト削減と輸送時間の短縮による経済の活性化が期待されています。



現在のナミベ港

本プロジェクトの完成は、アンゴラ国民の生活向上や南部地域の経済発展の促進、そして同国の次世代の経済基盤の構築に向けた重要な一歩です。弊社は、今後もアンゴラ共和国をはじめとするアフリカ諸国の持続可能な成長に引き続き貢献してまいります。



プロジェクト完成記念式典
(写真の右がアンゴラ共和国大統領João Manuel Gonçalves LOURENÇO閣下)

[ナミベ湾包括開発プロジェクトの概要]

事業場所	アンゴラ共和国ナミベ州
契約相手先	アンゴラ共和国交通省
契約金額	約700億円
資金調達	(株)国際協力銀行(JBIC)および民間金融機関(株)日本貿易保険の貿易代金貸付保険付)からの協調融資
契約概要	ナミベ湾包括開発プロジェクト(建設) (1)サコマール港鉄鉱石輸出栈橋の建設、浚渫、後背地整備など (2)ナミベ港コンテナターミナルの拡張、新ターミナルの建設、浚渫、コンテナクレーン等の荷役機械・船舶運航管理システム(VTS)・作業船などの機械・設備の調達供給・据付設置など

Ewa Asanuma
東亜建設工業(株)